



シバセ工業が発売する「ヒンメリストロー」。果ごもり需要の取り込みを図る

「接種有休」を新設

昨年、PCR検査用のストローを開発して大きな注目を浴びた各種ストロー製造のシバセ工業（浅口市鴨方町六

条院中）。長引くコロナ禍を受け、今度はコロナに対応した特別有給休暇の制度を設けた。

社員のワクチン接種を支援・促進する狙い。通常の年次有休とは別に、今年9〜12月の間に計五分取得できる。原則として一回目の接種日とその翌日、副反応が強いとされる二回目の接種では当日から翌々日までが有休となる。

すでに接種を済ませた社員も、自身や家族が感染者と濃厚接触した疑いがある▽接種する家族を送迎する必要がある▽緊急事態宣言による休校で子供の面倒を見なければならぬなど、コロナ関連の理由なら何にでも一時間単位で適用可能。

「年次有休を消化するのはではなく、会社が休みをくれるなら接種に行く」という社員の意見がきっかけと磯田拓也社長。接種予約がしづらい時期もあったことから、就業時間内に会社の電話やパソコンで予約を行ってよいこととした。希望する社員には会社が予約のサポートもする。

特別有休の取得申請はほとんど増えており、9月中旬時点で三〇件以上になるという。



ストローで作ったヒンメリ。制作テキストの発売も予定する

「副反応を考えると接種後の休暇は必要。進捗が遅かった一人暮らしの人や若い人も接種するようになった」と磯田社長。「本人の意思でワクチンを打たないのは自由だが、できるだけ多くの社員に早く接種してもらい、安心して仕事をしたい」と話す。

在宅需要向け新商品も

本業では、在宅時間の増加に伴う需要を見込んだ新商品を9月30日に発売する。フィランドの伝統的な飾り「ヒンメリ」を作るための専用ストローだ。

わらの空洞に糸を通して結び、幾何学的な多面体などに組み上げて吊るすヒンメリは、近年日本でも人気が上昇。女

性を中心に、自作したり教室を開く人が増えている。わらの代わりに細いストローを用いる場合も多いが、果ごもり需要のためかストローが品薄となり、複数の愛好家から同社に問い合わせが寄せられた。試作品を作って愛好家に送り、アドバイスを受けつつ三カ月ほどで完成させた「ヒンメリストロー」は長さ三五センチ、直径は二・五センチの二種類。色は赤・黄・緑などに加え、わらの色味を再現した「麦ベージュ」「麦プラウン」など計一〇種がある。一〇〇本入りで税込み八五八円。五〇本ずつ二種の色を選ぶこともできる。

ストローは飲料用などと同じくポリプロピレン製。他社にも類似商品があるが「当社製品は多彩な色売り。また曲がりにくいよう、硬く肉厚にしてあります」と製造技術部の守田和史さん。同社通販サイト「ストロー館」で注文を受け付けている。

年内には、ストローと針や糸をセットにし作家の監修も受けた製作キットや、作り方を解説したテキストブックも登場予定。コロナ禍で広がった市場への本格参入を図る。